【創世記第19章】

「いのちがけで逃げなさい。うしろを振り返ってはいけない。この低地のどこででも立ち止まってはならない。山に逃げなさい。さもないと滅ぼされてしまう。」（創世記19：17）

御使いはソドムに着き、ロトは彼らをもてなしています。神の使いをもてなすということは本当に素晴らしい事です。今回、台湾で17名の大きなチームでしたが、心からのおもてなしを頂き、徹底して仕える姿勢を学びました。

ロトのところに来た神の使い達の噂を聞いてソドムの町の人々が集まってきました。非常に乱れた汚れた町であることがユダの手紙7節でもわかります。「また、ソドム、ゴモラおよび周囲の町々も彼らと同じように、好色にふけり、不自然な肉欲を追い求めたので、永遠の火の刑罰を受けて、みせしめにされています。」まさに滅ぼされる寸前の町でした。御使いは彼らの非礼を見て、目つぶしを食らわし、「立ってこの場所から出て行きなさい。主がこの町を滅ぼそうとしておられるから。」しかし、彼の婿たちには、それは冗談のように思われました。ロトにも言いましたが、彼はためらっていたというのです。神のことばを真剣に受け止めず、直ぐ行動しなければならないにもかかわらず、もたもたしていました。それで、彼等は彼の手と彼の妻の手と二人の娘の手を掴んで連れ出したのです。無理矢理に束縛されてするというのは、誰でも嫌なものです。滅ぼされないように連れ出されています。危険が迫っているのです。それは神様のロトに対するあわれみによると書いてあります。アブラハムのとりなしの祈りのお蔭でしょう。「いのちがけで山に逃げなさい！」と言われました。

山に逃げなさいとはどういうことでしょうか？台湾派遣中に日本では御嶽山の爆発がありました。逃げろ!と言って頭に自分のリュックを載せて助かった人がいました。聞いてすぐ従わなければ命に関わることもあります。低地に危険が迫っているので、高い山に逃げなさい!というのです。この世は罪で満ちています。このソドムのように、同性婚、不法がはびこり、愛が冷えています。山に逃げて、神に会いましょう。神のことばを頂きましょう。もうすぐ年の初めのイスラエル派遣がありますが、それも教会全体にとって、「山」でしょう。また長崎の殉教聖会、冬の白馬キャンプ、夏の白馬キャンプ、、、それぞれの派遣、また聖日礼拝に来ることも「山」ですね。毎朝の早天礼拝もそうでしょう。私達に神様が確かに語りかけておられる「山」に逃げましょう！いのちを得るためです。

「うしろを振り返ってはいけない。この低地のどこででも立ち止まってはならない。山に逃げなさい。さもないと滅ぼされてしまう。」と言われたにもかかわらず、ロトの妻は後ろを振り返ったので塩の柱になってしまいました。26節「ロトのうしろにいた彼の妻は、振り返ったので、塩の柱になってしまった。」毎年行くイスラエルで必ず死海のほとりに塩の柱になったロトを見ます。後世まで語り伝えられ、戒めとされています。私達はこうなってはいけません。主に聞き従えますように！！聖霊の実、救いの実を結べるように！祈りましょう。

＊皆様のお手荷物・貴重品等には十分ご注意下さい。
教会内での紛失や盗難等については一切責任を負いかねます。

TLCCC FRH

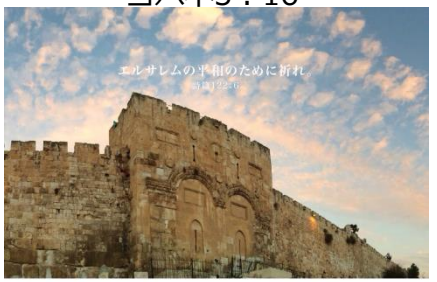
天に登録されている長子たちの教会
Church of the Firstborn who are Registered in Heaven
主任牧師：イエス・キリスト
牧師：ダニエル大重

SHILOAM

【シロアム：遣わされた者】
2014.10.5　No.809

新年のみ言葉
いつも主にあって喜びに満たされなさい。
もう一度言います。喜びなさい。
ピリピ書4章4節

神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、
世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。
ヨハネ3：16



主の十字架クリスチャンセンター*(TLCCC)*
The Lord's Cross Christian Center
http://astone-blog.jp/tlcccfrh/